広島経済大学のスポーツ資源を探る

尾　方　　剛・松　田　　亮
松　本　耕　二・渡　辺　勇　一

1．はじめに

わが国では大学スポーツの産業化を推し進める動きが進んでいる。文部科学省（2016）は，学生アスリートや教職員，運動部指導者，スポーツ施設など，大学が持つスポーツ資源が社会に貢献する人材の育成，経済活性化，地域貢献等の点から大きな潜在力を有しているとして大学スポーツの振興に関する検討会議を設置した。2017年３月には「最終とりまとめ～大学のスポーツの価値の向上に向けて～」が公表（スポーツ庁，2017）され，大学スポーツの振興に向け，１）大学トップ層の理解の醸成，２）スポーツマネジメント人材育成・部局の設置，３）大学スポーツ振興のための資金調達力の向上，４）スポーツ教育・研究の充実や小学校・中学校・高等学校等への学生派遣，５）学生アスリートのデュアルキャリア支援，６）スポーツボランティアの育成，７）大学のスポーツ資源を活用した地域貢献・地域活性化について報告されている。

大学におけるスポーツ活動には，大学の教育課程としての体育，学問体系としてのスポーツ科学，また課外活動（部・サークル活動，ボランティア）等があり，身体的能力を高める，健康的な生活をデザインするなど，豊かな生活を送るための効用がある。また教育機関としての大学には，知的資源はもとより，競技能力の高いアスリートや優秀なスポーツ指導者等の貴重な人材が存在する上に，体育・スポーツ施設等の環境が整備され，スポーツを通し社会を活性化させる貴重な機能を有している。大学運動部

（課外活動）の強化に伴う学生確保，さらには世界大会レベルにある選手の雇用などによる大学広報等を通した大学の経営戦略として活用されている場合もある。これらはスポーツ系の学部・学科の設置を乱立させている原因の一つにもなっていることが指摘もされているが，これまでわが国のスポーツの発展に寄与してきた企業スポーツの代替的役割を担い，さらには強豪大学がそれぞれ切磋琢磨し競技力の向上を目的として活動できることは有益なことである。また全国大学体育連合（2014）が行った「課外スポーツ活動支援に関する調査」においても80％を超える大学が「運動部学生の人間的成長やリーダー養成」や「一般学生も含めた学生生活の充実」，「学生や教職員の愛校心の醸成」，「社会における大学のイメージやブランド力の向上」を大学スポーツに期待している。

本学は，開学50周年を迎えた。開学当初より学生らが自主・自発的に取り組む課外活動が積極的に行われてきた歴史がある。卒業生にはオリンピアンをはじめ，現役で活躍するプロ・スポーツ選手もいる。大学スポーツにおいても，中四国を代表する運動部や競技選手を数多く輩出し続けており，地方にありながらスポーツ活動が盛んな大学としての名を知らしめている。またこの強みを活かし，2011年には経済学の単科大学にスポーツ経営学科を開設し，理論と実践，文と武の両立を図るべくスポーツマネジメントを学ぶ学科が開設された。

今まさに，大学経営，また大学スポーツの経営が問われている。改めてこの機に，広島経済大学におけるスポーツ資源について，今後の大学スポーツの活性化と今後の方向性と可能性を模索していきたいと考えている。今回は，本学において，学生と教職員が育む活動の一環である課外活動を取り上げる。殊に大学スポーツの組織とこれまでの歴史を実績と経年分析を通して概観するとともに，本学が有するスポーツ環境（施設）について報告する。さらに，これらのスポーツ資源の価値を高めることを目的とした将来の可能性について展望する。

2．広島経済大学のスポーツ組織と現状

2-1. 学生登録組織と学友会

広島経済大学では，学生の自治（登録制）組織である学友会において，その活動内容から体育局と文化局，その他の３部門２局（体育局と文化局）にわかれている。各局では，その活動実績に応じて「部」と「サークル（同好会，愛好会）」に分類される（図１）。

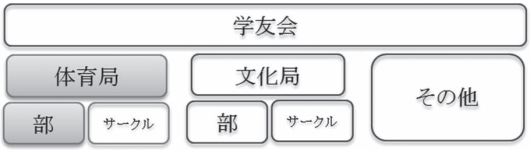


図１．本学の学生登録組織

【参考】本学における部・サークルの定義（リーダーズハンドブック，2016）

「部」とは，学友会規程により「愛好会」で１年，その後「同好会」で１年以上の活動を経たもので長期的な継続の見込みがあり，学友会において承認されたもの。また「部」には所属する体育部局または文化局から予算（部費）が割り当てられる。

「サークル」とは，社会的な問題や文化・芸術・スポーツなどに関心をもつ個人の集まりとし，学友会規程により，学友会において承認された「愛好会」及びその後１年の活動を経て昇格した「同好会」とする。

2-2. 学友会体育局

広島経済大学の学生が登録する組織は，2016年７月現在，学友会体育局，文化局，その他があり，そのうち体育局と文化局には37部，27サークルが登録され登録者総数は2,276名（登録者延数）である（表１）。そのうち体育局部には22競技25部と11サークルがあり，登録者総数の44.5％（1,013名）を占め，文化局の20.1％を大きく上回っている（表２，図２）。また2016年６月時点の大学在籍者数比で換算すると体育局のみで37.6％が登録している。

これら学生登録組織の各々には，本学の教職員（嘱託職員含む）らが，顧問や部長，監督，コーチなどに着任し学生の主体的活動をサポートする体制が図られている。

表１． 本学の学生登録組織一覧（2016/7/1現在）

	局		部		サークル（同好会，愛好会）
学友会	体育局	1	アーチェリー部	1	蹴球愛好会
		2	空手道部	2	テニス同好会 UNION
		3	弓道部	3	軟式野球愛好会 KETCHUPS
		4	剣道部	4	Flying disc 同好会
		5	硬式庭球部	5	女子フットサル愛好会 MEGERE FC
		6	硬式野球部	6	フットサル愛好会
		7	ゴルフ部	7	バドミントン愛好会 Minton
		8	サッカー部	8	ランニング愛好会　走友会
		9	柔道部	9	バスケットボール愛好会 Air Cranes
		10	女子バスケットボール部	10	男女混合バレーボール愛好会
		11	水泳部	11	自転車愛好会　武田山レーシング
		12	競技スキー部		
		13	ソフトテニス部		
		14	ソフトボール部		
		15	卓球部		
		16	男子バスケットボール部		
		17	バレーボール部		
		18	軟式野球部		
		19	バドミントン部		
		20	男子ハンドボール部		
		21	ボクシング部		
		22	陸上競技部		
		23	ワンダーフォーゲル部		
		24	女子サッカー部		
		25	女子ハンドボール部		
	文化局	1	上田宗箇流茶道部	1	レジャーフィッシング愛好会
		2	SF ＆ AG 研究部	2	座禅愛好会
		3	軽音楽部 DEEP DIGGERS	3	書道愛好会
		4	国際交流サークル ciao	4	PeaceNetwork 愛好会
		5	映画研究部 THE MOVIE	5	バイク愛好会
		6	将棋部	6	SOUND FACTORY 同好会
		7	ダンス部 DANCE RAZZLE	7	Grasp 同好会
		8	美術部	8	レクリエーション部
		9	放送部	9	劇団 SPRINGs 愛好会
		10	漫画研究部	10	サランマル（愛言葉）愛好会

学友会	文化局	11	ミュージック・ファミリー部	11	広島経済大学留学生会
		12	BBQ（Bright Beat Quality）同好会	12	広島東洋カープ愛好会
				13	モータースポーツ（四輪）愛好会
				14	フォークソング愛好会
				15	アウトドア愛好会
				16	天文愛好会
	その他※	1	学友会執行部	1	カフェ運営プロジェクト
		2	体育局	2	インドネシア国際貢献プロジェクト
		3	文化局	3	子ども達を守ろうプロジェクト
		4	大学祭実行委員会	4	武田山まちづくりプロジェクト
		5	マナー向上委員会	5	太田川キレイキレイプロジェクト
		6	応援団リーダー部	6	サクセスストーリー出版プロジェクト
		7	応援団チアリーディング部	7	食育推進プロジェクト
		8	応援団吹奏楽部	8	中国植林プロジェクト
				9	スポーツによる地域活性化プロジェクト
				10	中高生の夢・笑顔実現 !! プロジェクト
				11	学生 FD プロジェクト
				12	カンボジア国際交流プロジェクト
				13	ぶらり安佐南プロジェクト
				14	広げよう !! 平和折り鶴プロジェクト
				15	若旅促進プロジェクト
				16	東北支援プロジェクト
				17	広島ハワイ文化交流プロジェクト
				18	経大生学び合いプロジェクト
				19	コミュニティ FM 放送局運営プロジェクト
				20	遊びで開こう未来の扉。プロジェクト
				21	広島地域活性化映画祭プロジェクト
				22	本の世界に触れようプロジェクト
				23	動物のかけがえのない命を守ろうプロジェクト
				24	宮島の魅力を発信し隊学生プロジェクト
				25	広島国際交流おもてなしプロジェクト

※その他には，幹部会と委員会，またプロジェクト・サークルが登録されている。
※2017年 3 月には，応援団リーダー部，チアリーディング部，吹奏楽部は，体育局所属となった。

表２． 本学における学生組織の登録状況
（2016/7/1現在）

	登録者数	%	在籍者比
体育局	1013	44.5%	37.6%
文化局	457	20.1%	17.6%
その他	806	35.4%	28.9%
登録者総数※※	2276	100.0%	81.2%

※在籍者数は2016/6/9現在2803名
※※登録者数は，複数の部・サークルへの登録者も含む延べ人数

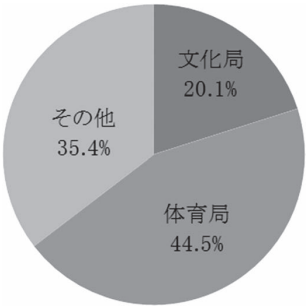


図２． 本学における学生組織の登録状況

2-3. 体育局部

本報告では，大学スポーツを組織的な基盤と継続性の観点から，限定的ではあるがサークル（同好会，愛好会）を除き，学友会体育局部のみについてみることとする。

登録者数の最も多い部は，硬式野球部の150名で全体の18.3%，在籍者比は5.4%を占める（表３）。他の部と比べ極めて高いことがわかる。福岡ソフトバンクホークスの主砲として今なお活躍し，2015年にプロ野球史上10人目となるトリプルスリー（打率 .363，34本塁打，32盗塁）を達成した柳田悠岐（2011年卒）の影響は少なくない。本学の卒業生が，マスメディアを通して広島経済大学の名を全国に広めるといった宣伝効果は知名度の

表３． 体育局所属部の登録者数（2016/7/1現在）

	クラブ名称	登録者数	登録者比	在籍者比
1	アーチェリー部	18	2.2%	0.6%
2	空手道部	12	1.5%	0.4%
3	弓道部	22	2.7%	0.8%
4	剣道部	12	1.5%	0.4%
5	硬式庭球部	26	3.2%	0.9%
6	硬式野球部	150	18.3%	5.4%
7	ゴルフ部	5	0.6%	0.2%
8	サッカー部	93	11.4%	3.3%
9	柔道部	5	0.6%	0.2%
10	女子バスケットボール部	13	1.6%	0.5%
11	水泳部	24	2.9%	0.9%
12	競技スキー部	4	0.5%	0.1%
13	ソフトテニス部	34	4.2%	1.2%
14	ソフトボール部	30	3.7%	1.1%
15	卓球部	18	2.2%	0.6%
16	男子バスケットボール部	14	1.7%	0.5%
17	バレーボール部	33	4.0%	1.2%
18	軟式野球部	92	11.2%	3.3%
19	バドミントン部	43	5.3%	1.5%
20	男子ハンドボール部	31	3.8%	1.1%
21	ボクシング部	12	1.5%	0.4%
22	陸上競技部	98	12.0%	3.5%
23	ワンダーフォーゲル部	6	0.7%	0.2%
24	女子サッカー部	8	1.0%	0.3%
25	女子ハンドボール部	15	1.8%	0.5%
部登録者総数		818	100%	29.2%

※在籍者数は2016/6/9現在2803名

向上による部員の獲得にとどまらず，様々な面において大きな影響があるといえる。次に多い部には，陸上競技部，サッカー部，軟式野球部が90名程度であり，登録者比は全体の11～12％であった。陸上競技部は，短距離，長距離のそれぞれにおいて二人のオリンピアン指導者であり教員を配置し充実した指導体制を取っている。サッカー部も同様に，Ｊリーグチームの監督経験のある指導者が存在しており，そのレベルの高い指導を受けたいと希望する選手らにとっては魅力的な要素であり，この影響は大きい。他にも，本学の体育局部の特徴として，少数精鋭の部員で，日々研鑽に励み成果を挙げる部が多い。

３．これまでの広島経済大学におけるスポーツの足跡

広島経済大学は1967年４月１日に開学し，2017年で50周年を迎えた。半世紀に及ぶ歴史の中で，本学スポーツの成績を『広島スポーツ年鑑』（広島県体育協会，1984－2014），『広島経済大学広報縮刷版』（広島経済大学，2017），中国新聞，朝日新聞のスポーツ関連記事および広島経済大学公式ホームページ等を元に関連記事を抽出・収集し，その足跡をみる。

3-1. 経大スポーツの歴史

ここでは，開学後からの成績を10年ごとに纏め紹介する。

１）1970～1980年

広島経済大学開学直後は，陸上競技，サッカー，硬式野球，卓球，弓道，剣道，テニスが創部され活動していた。各部の主な競技結果は，1970年にヨット部が全日本学生選手権スナイプ級２位，1973年には弓道部が中国学生大会で個人男子１位となった。1974年には硬式野球部が明治神宮大会に出場し，その名を全国に知らしめた。1976年には，サッカー部（男子）が全日本大学選手権中国予選で決勝に進出した（準優勝）。1977年に空手道部が剛柔会全国選手権軽量級で個人（松浦孝夫）１位，全日本大学選手権では団体４位となった。経大スポーツ史において，全日本大学選手権入賞

第１号はヨット部であった。

２）1981～1990年

1983年にテニス部が中四国学生選手権で単・複１位となった。1984年には，軟式野球部が全日本大学選手権出場を果たした。翌1985年には，総合グラウンド完成した。同年，バレーボール部が全日本大学選手権３回戦まで進出した。1987年には，弓道部が中国学生選手権男子団体１位となる。1990年にスキー部が高松宮杯西日本大会男子回転成年１部で個人（今利浩平）１位，テニス部では中国学生選手権で男子が単・複１位となった。この年代では，中国，西日本ブロック大会の壁を破ることが困難な時代であったといえよう。

３）1991年～2000年

経大スポーツが盛り上がりを見せた年代であった。1991年は陸上競技部が全日本大学駅伝対校選手権で14位となった。スケート部は西日本フィギュア選手権で個人男子（尾崎央）１位，スキー部では，中四国九州学生選手権男子回転・大回転で個人（村竹正樹）１位となった。1992年は硬式野球部が全日本大学選手権準々決勝に進出し，その年のプロ野球ドラフト会議で小林宏投手（1993年卒）がオリックスから１位で指名され初のプロ野球選手となった。さらに1993年，陸上競技部では，日本選手権男子1500ｍで内冨恭則（1995年卒）が１位，国民体育大会の陸上男子3000ｍ障害でも１位と，全国大会で互角に戦える選手が台頭した。また長距離では出雲全日本大学選抜駅伝競走大会で６位，秩父宮賜杯全日本大学駅伝対校選手権大会では10位とチーム競技でも全国大会で活躍した。さらに硬式野球部は，明治神宮大会（２回戦）に出場を果たした。1994年には，陸上競技部の内冨恭則が日本選手権の男子3000ｍ障害で３位，日本学生選手権男子3000ｍ障害１位，広島で開催されたアジア大会男子3000ｍ障害では３位となり，国際大会でのメダリストとなった。1995年には，ハンドボール部が全日本学生選手権へ出場した。また硬式野球部が全日本大学選手権（２回戦）と明治神宮大会（２回戦）の二大会に出場を果たした。

1996年，陸上競技部では日本学生選手権1500 m で松長信也（1997年卒，現中電工陸上競技部監督）が１位となり，1997年は，ハンドボール部が全日本学生選手権（１回戦），バレーボール部（女子）が全日本大学選手権（２回戦）に出場した。テニス部では全日本大学王座中四国予選で男女各１位となった。

1998年に陸上競技部は，日本学生対校選手権3000 m 障害で２位（佐達恵）となった。ハンドボール部は学生選手権（１回戦），サッカー部は全日本大学選手権（１回戦）に出場を果たした。アーチェリー部では，全日本学生個人選手権男子で３位（吉富和成）と健闘した。1999年，陸上競技部は日本選手権200 m で松田亮（2005年院修了，現広島経済大学スポーツ経営学科助教）が２位となった。2000年に弓道部は，全日本学生王座決定戦男子団体で３位となり，ソフトボール部は，全日本大学男子選手権（１回戦），バスケットボール部では，中四国学生選手権春季・秋季で各１位という成績を上げた。

４）2001年～2010年

経大スポーツが活躍し，テレビや新聞等マスコミが大いに取り上げ，世間から注目を浴び，最も輝いた時代であった。

2001年に弓道部が全日本学生選手権男子団体で１位となる。陸上競技部は日本選手権800 m で中野将春（2002年卒）が１位，松田亮が世界陸上選手権200 m １次予選で５位，日本学生対校選手権100 m，200 m で１位となった。ソフトボールでは，全日本大学選手権で準々決勝に進出を果たした。2002年はサッカー部が全日本大学選手権（１回戦）に出場した。プロボクシング全日本Ｓフライ級で中広大悟（2006年院修了）が新人王を獲得する。2003年には陸上競技部から松田亮が世界陸上選手権男子400 m リレーに出場し，第３走者（土江・宮崎・松田亮・朝原）として７位入賞に貢献する。

2004年，陸上競技部は日本選手権200 m で松田亮が２位となり，アテネ五輪日本代表となった。アテネ五輪200 m では１次予選８位という結

果に終わった。サッカー部は全日本大学トーナメント（１回戦），天皇杯全日本選手権（２回戦）に出場した。2005年は弓道部が，全日本学生選手権男子団体（１回戦），女子団体（２回戦），2006年には，剣道部が全日本学生優勝大会（１回戦）に出場を果たした。2008年はサッカー部が，全日本大学トーナメント（１回戦），全日本大学選手権では準々決勝まで進出した。プロボクシングでは，中広大悟が遂に日本Ｓフライ級チャンピオンとなった。

2009年は，ソフトボール部が全日本大学男子選手権（１回戦），硬式野球部は，全日本大学選手権（２回戦）に出場した。2010年には，広島六大学で通算４度首位打者を獲得した硬式野球部の柳田悠岐（現福岡ソフトバンクホークス）がプロ野球ドラフト会議でソフトバンクから２位指名を受けた。

５）2011年～現在

近年では，経大スポーツの競技力低下が顕著に見受けられる。

硬式野球部は，３季連続広島六大学リーグ３位，バスケットボール部では，全日本大学選手権中国地区入替戦で男子は２部降格した。またテニス部は2015年シーズンであるが，全日本大学王座決定戦中四国大会入替戦にまわり，男子は２部降格を余儀なくされている。全国大会への出場は，硬式野球部が，四季ぶりに広島六大学春季リーグ戦で優勝し，全日本大学選手権に出場（１回戦敗退），サッカー部は天皇杯全日本選手権で２回戦進出，陸上競技部では出雲全日本大学選抜駅伝競走12位，秩父宮賜杯全日本大学駅伝対校選手権大会19位，日本学生対校選手権男子走り幅跳びで藤原駿也（2017年卒）が４位となった。また硬式野球部の尾仲祐哉投手（2017年卒）がプロ野球新人選手選択会議で横浜 DeNA ベイスターズから６位指名を受けた。広島経済大学からプロ野球の世界に進むのは，2011年に福岡ソフトバンクホークスへ入団した柳田悠岐選手以来で，５人目となった。

以上，ここには，全国大会で活躍した経大スポーツの足跡の一部を列記したが，ここには記せなかった多くの経大生の活躍がさまざまなところで

記録されている。ひとえに学生であった経大生の努力の賜物であるが，その学生らを支える顧問や部長，監督，コーチなどに着任した教職員（嘱託職員含む）と大学関係者が一体となった営みがこれらの歴史を作り上げてきた。

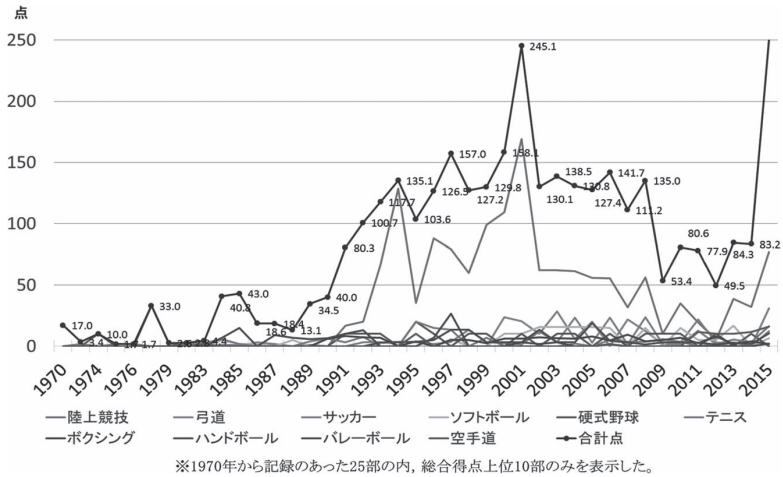
3-2. 経大スポーツの隆盛（大会出場得点の経年変化）

ここでは，経大スポーツの競技成績（前述資料：1970年から2015年）を各年度，各部ごとに数量化し，その隆盛（傾向）をみる。

表 4． 大会出場得点の算出基準

大会レベル	出場得点	順位得点							
		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
国際大会	20	8	7	6	5	4	3	2	1
全国大会	10								
西日本大会	5	0.8	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	0.2	0.1
ブロック大会	1								

※順位得点：団体競技リーグ戦の場合，トップ（1 部）リーグの場合のみ加算した。個人競技では出場得点と各人の順位得点のみを加算した。



※1970年から記録のあった25部の内，総合得点上位10部のみを表示した。

図 3． 経大スポーツの大会出場得点の経年変化

この数量化には，前述資料から抽出した競技成績を大会レベル（国際大会，全国大会，西日本大会，ブロック大会）に応じた出場得点と，順位（成績）得点を任意に割り当て，25競技各部ごと（チーム・個，男女合算）に算出している（表４）。その後，各部の大会出場得点を年度ごとに算出し，経年変化を図３に記している。また大会出場得点トップ10の部からその特徴をみることとした。

１）経大スポーツ得点

1970年から2015年までの隆盛（合計点）をみると，黎明期の1977年，また次期1984，85年には全国大会レベルへの出場によるインパクトがみられた。その後1990年から右肩上がりに勢いを増し，アジア大会が開催された1994年，そして1997年，さらに2001年にはピーク（245.1点）に達している。その後2002～2008年の間の横這いの期間を維持している。2009年からは，50～100点レベルに低迷している状況が見て取れる。

２）部別累積大会出場得点

1970年から2015年までの大会出場（成績）得点の上位10の部についてその累積合計点をみた（表５）。その結果，陸上競技部が1472.8点で１位，以下，弓道部，サッカー部，ソフトボール部，硬式野球部の順に高かった。これには個人競技種目と団体競技種目（チーム）の違いや部員数の多さ，出場大会機会の多少等，大会出場得点の算出方法が影響していることも懸念されるが，経大スポーツ史において，陸上競技部をはじめとしたトップ10の部は，本学を代表し，その名を知らしめる活躍をしているといえよう。

表５． 部別累積大会出場得点

順位	部※	大会出場得点
1	陸上競技	1472.8
2	弓道	198.7
3	サッカー	182.7
4	ソフトボール	180.9
5	硬式野球	180.0
6	テニス	138.6
7	ボクシング	133.0
8	ハンドボール	124.5
9	バレーボール	117.8
10	空手道	108.4

※1970～2015年の累積トップ10の部（男子・女子合算）

4．スポーツ施設

本学には，教育の場としての充実した体育・スポーツ施設がある。1985年に完成した総合グランドは，陸上競技場，テニスコート，体育館（アリーナ，武道場，多目的ルーム）と野球場が配置され，2014年にはフットボール（サッカー場）パークが設置された。これらスポーツ施設では，体育・スポーツ関連の授業や実習をはじめ，課外活動部活動やサークル活動，さらには，学生らの空き時間には主体的な活動の場として日常的に活用されている。

ここでは，本学の陸上競技場，体育館，球技系運動場といったハード面について明らかにし，広島県内にある運動公園といったスポーツ施設と比較することによって，本学のスポーツ施設が，今後どのような効果が期待されるかを提案する。

1）陸上競技場

本学の陸上競技場は400 mトラックによる，全天候型・アンツーカー・天然芝で構成される日本初の三重構造トラックを採用したトレーニング専用フィールドであり，ナイター設備および6,000人収容可能なスタンドも完備している。以前は，国際競技大会も開催可能な第2種公認陸上競技場として，日本の大学では筑波大学，鹿屋体育大学に次ぐ3例目で，私立大学では初めて建設された公認陸上競技場でもあった。現在では，日本陸上競技連盟が定める公認陸上競技場の種別としては，第4種公認陸上競技場として承認され，記録会を毎年7回ほど実施しており，1回あたりの参加選手の人数は，多い時で約200名以上となり，大規模な記録会が実施されている。

また，表6に示したように収容人数は，広島広域公園（現：エディオンスタジアム）が最も多く収容でき，その他の運動公園にあるスポーツ施設では，10,000人以上収容できる施設が多いことからも，本学においては，

表 6． 陸上競技場における本学施設と広島県内施設の比較

施　設　名	収容人数	種別
広島経済大学	**6,000**	**4**
広島広域公園	50,000	1
広島県総合メインスタジアム	13,800	2
福山市竹ヶ端運動公園	10,081	2
みよし運動公園	10,000	2
東広島運動公園	5,200	2
呉市総合スポーツセンター	2,000	3

表 7． 全国における国公立・私立大学が有する公認陸上競技場

地方名	大学数	種　別	
		第 3 種	第 4 種
北海道	0	0	0
東北	2	1	1
関東	18	10	8
中部	6	1	5
近畿	7	3	4
中国・四国	4	1	3
九州	4	3	1
合　計	41	19	22

2016年度時点

収容人数は少ない。表 7 には全国の国公立・私立大学が所有している公認陸上競技場を示している。大学の公認陸上競技場は，関東地方を中心に多いことがわかる。その設置数と地方の競技レベルによる水準は比例していることも考えられる。なお，これらを所有する多くの大学は競技力強化のためのみに公認陸上競技場を設置しているのではなく，競技会の開催および小学生を対象としたクラブチームの立ち上げや，スポーツ教室で子ども

達への指導を行うといった，競技の普及活動や指導などの地域貢献の場としての役割も担っている。本学においても毎年複数回の競技会や大会を実施し，スポーツの普及活動に努めている。しかしながらクラブチームの立ち上げやスポーツ教室といった活動実施にまでは至っていない。

2）体育館

体育館については，広島市から第12回アジア大会バスケットボール会場の主会場として要請を受けたことから，アジア競技大会組織委員会の要望を取り入れ，平成４年12月に完成した。メインアリーナはバスケットボールコート４面分を確保し，全国の大学施設としては最大級の広さを誇っている。普段は，スポーツ実習の授業や運動部活動での使用がメインとなっているが，土日・祝日には各種競技でインカレといった規模の大きな試合が開催されている。また，広く地域社会にも開放し，地元学区の各種大会なども盛んに行われている。

表８． 体育館における本学施設と広島県内施設の比較

施　設　名	固定席	施　設　内　容
広島経済大学	**725**	**バレーボール４面，バスケットボール４面，バドミントン16面，ハンドボール２面**
広島県立体育館（大アリーナ）	4,750	バレーボール４面，バスケットボール４面，バドミントン16面，ハンドボール２面
福山市緑町公園屋内競技場	2,540	バレーボール４面，バスケットボール３面，バドミントン12面
呉市総合体育館	1,922	バレーボール４面，バスケットボール３面，バドミントン12面，ハンドボール２面
東広島運動公園	1,384	バレーボール３面，バスケットボール２面，バドミントン12面，ハンドボール２面
みよし運動公園	1,008	バレーボール２面，バスケットボール２面，バドミントン12面
びんご運動公園	1,500	バレーボール３面，バスケットボール２面，バドミントン12面

そして，表８には本学の体育館と広島県内に有る主な体育館施設を比較したものを示している。これらを見ると分かるが，バレーボールコート４面，バスケットボールコート４面，バドミントンコート16面，ハンドボールコート２面が確保できることは，広島県内で最も広い広島県立体育館と同等の規模であることが分かる。その他の施設と比較しても分かるが，本学の体育館は広島県内でもトップクラスであることが示される。しかし，固定席の数では，広島県立体育館の約６分の１程度であり，その他の施設においても1,000席以上の固定席が確保されていることから，本学の体育館においては，固定席の数の少なさが目立っている。

３）野球場

野球場については，両翼 92 m，センター 120 m，内野は黒土，外野は天然芝であり，内野スタンド，外野スタンド，本部席，ダッグアウト，ブルペン，バックスクリーン，スコアボード等を完備した本格的野球場として建設され，旧市民球場よりも大きい規模となっている。広島六大学野球に加盟していることから，その他の加盟大学との公式試合や社会人野球チームを招いてのオープン戦など多くの試合が実施されている。

表９では本学の野球場と広島県内における主な野球場施設を比較したものである。球場規模に着目してわかるように，球場も大きく，設備も充実

表９． 野球場における本学施設と広島県内施設の比較

施　設　名	収容人数	球　場　規　模
広島経済大学	**4,200**	**両翼 92 m，センター 120 m**
広島市民球場	33,000	両翼 100 m，センター 122 m
みよし運動公園	16,000	両翼 100 m，センター 122 m
びんご運動公園	16,000	両翼 96 m，センター 120 m
福山市竹ヶ端運動公園	15,299	両翼 90 m，センター 120 m
呉市二河野球場	15,000	両翼 97.5 m，センター 122 m
東広島運動公園	3,800	両翼 100 m，センター 122 m

していることから公式の対外試合を行う施設としては非常に適していることが伺える。しかし，前述にも示した体育館と同様に，スタンドを含めた収容人数の規模が少ないことがわかる。

4）サッカー場（フットボールパーク）

サッカー専用グラウンドとして2014年３月に完成し，本学のスポーツ施設においては最も新しい施設であり，施設名称は「フットボールパーク」と名付けられた。施設内容については，全面人工芝のサッカーコート１面およびフットサルコート４面を確保することができる。また，地上３階建ての付属施設には，１階に更衣室３部屋，ミーティングルーム，スタッフ兼メディカルルーム，２階に大小の更衣室４部屋および倉庫２部屋，３階にどの席からも試合を観覧できる階段式スタンド席が330席設置されており充実した設備となっている。

表10ではサッカー専用グラウンドにおける本学施設と広島県内施設の比較であり，表10を見て分かるように，サッカー専用グラウンドを所有している施設は少ない。ほとんどの運動施設において，陸上競技場との一体型であり，本学にもフットボールパークの他に，陸上競技場内に人工芝のサッカーコートが整備されている。また，安芸高田市にある吉田サッカー公園はサッカー専用グラウンドとして最も大きい規模であるが，Ｊリーグチームのサンフレッチェ広島の練習拠点でもあり，一般開放では安芸高田市民のみとなっている。このことからも，広島市中心部に有るサッカー専

表10. サッカー専用グラウンドにおける本学施設と広島県内施設の比較

施　設　名	収容人数	施　設　内　容
広島経済大学	**300**	**サッカーコート１面（人工芝）**
広島広域公園第一球技場	10,000	サッカーコート１面（天然芝）
廿日市市サッカー場	不明	サッカーコート１面（人工芝）
吉田サッカー公園	観客席なし	サッカーコート３面（天然芝２面，人工芝１面）

用グラウンドは本学の施設のみであり，授業や運動部活動の他に，地域貢献を担う役割として期待されるのではないだろうか。

5）テニスコート

本学のテニスコートは，表面には非常に細かい砂粒が撒かれた人工芝したオムニコートで整備されており，軟式・硬式両面８面および壁打練習コート１面を有している。現在においては，運動部活動の他，インカレといった学生の試合および教職員テニスの活動に使用されており，専用のテニスクラブハウスも隣接されている。

表11ではテニスコートにおける本学施設と広島県内施設の比較をしたものである。雨の多い日本では，水はけもよく，管理がおこないやすいため，ほとんどの施設がオムニコートを採用している。本学でもオムニコートを採用しており，屋内コートは完備していないが，広島県内の運動公園施設と比較しても，劣っていないことが分かる。

表11. テニスコートにおける本学施設と広島県内施設の比較

施　設　名	コート種類	施　設　内　容
広島経済大学	**オムニコート**	**屋外８面**
広島広域公園	ハードコート	屋外16面，屋内４面
東広島運動公園	オムニコート	屋外９面，屋内３面
びんご運動公園	オムニコート	屋外14面，屋内４面
みよし運動公園	オムニコート	屋外８面，屋内４面
福山市竹ヶ端運動公園	オムニコート	屋外12面
呉市総合スポーツセンター	オムニコート	屋外10面

５．広島経済大学スポーツの可能性および将来へ向けて

現在，文部科学省をはじめ大学スポーツの価値の向上に向けて，様々な議論がされている。この背景には，スポーツは青少年の健全育成や地域社

会の再生，心身の健康・保持増進など国民生活において多面にわたる役割を果たすものとされており，大学には教育研究機関としての知的資源はもとより，高い競技力を持つアスリートや優秀なスポーツ指導者などの貴重な人材が存在する上，多くの大学において体育・スポーツ施設が整備されており，スポーツを通じて社会を活性化させる貴重な機関であると示されている（文部科学省，2017）。このことからも，前述にも示してあるように広島県内でもトップクラスを誇る充実したスポーツ施設を有しており，運動・スポーツを通した教育活動はもとより，既に実施・活用されている地域貢献活動も含め，様々な情報やプログラムを発信する可能性は有している。大学の施設は，一義的には教育施設であるが，本学の財を活用することによって様々な収益活動に取り組むこともできよう。もし本学の施設を活用して興業することとなれば，観客席など収容人数の規模が少ないことが課題・検討事項となるが，大学関連商品の作成・販売，ネーミングライツの設定および教育研究に支障の無い範囲においてスポーツ施設等の貸出使用料を得ながら開放することも可能ではないだろうか。このような活動を行うことで大学キャンパスの価値を一層高めていくことも期待され，得られた収益を教育研究や社会貢献に循環させるシステムを構築することも可能となるかもしれない。

広島経済大学には，学生が主体的に活動する部活動の競技者にとって，中四国の，否，全国の他大学にも誇れるスポーツ施設が整っている。またいつでも不自由なく競技に取り組めるスポーツ環境が確保されている。さらにはいくつかの部には全国でもトップレベルの指導者が就き，サポート体制が整えられている。現在の状況を鑑みると，厳しい見方となるが本学の体育局の各部は，中四国の上位レベルに甘んじているのが現状ではないだろうか。そのスポーツ環境や施設を活かしきれていないのか，中国地区の地方にありながら全国に名を馳せることができる大学へのステップアップを図るには何が足りないのか。広島経済大学にはプロで活躍して世間から注目を浴び，またオリンピアンを輩出するなど，国内外で実績を残した

人材育成のノウハウや実績はある。そのためにはスポーツ施設とともにこれまでの本学の実績を強みとして活用できるような，学生アスリート管理やスポーツを通じた大学ブランド力の向上の機能を担う部局を本学において創設すべき時期にあるのではないだろうか。その部局には，本学の大学スポーツ資源を管理・調整する人材である大学スポーツ・アドミニストレーターの配置（文部科学省，2017）が重要なカギとなる。

本学では，国際化，情報化，行動技術社会に対応できる人材の育成を目指し，「知・徳・体の三拍子そろったバランスの取れた人材の育成，将来に素晴らしい可能性を秘めた，創造性豊かな，心身ともに健全な人材の育成」を標榜している。そのため大学スポーツ（体育局部）の強化が図られ，本学の強みになっている。各企業の採用担当者からの本学体育局部で活動した学生に対しての評価は高いという。これは，わが国の運動部活動の特性ともいえるが，挨拶はもとより日本社会にみられる先輩・後輩，仲間との関係性を大切にするなどのコミュニケーションスキルが身につくからである。さらにスポーツ場面で培った身体的強靭さや地道な努力による精神的な強化が，社会に出た折に仕事を投げ出さない，会社を辞めないなど活動を通した学びが社会に通じる人間力が養われるためでもある。単に学力が高い，専門的知識を身に付けているのみではなく，周りとの調和を図り，コミュニケーション力が高い人材を社会は求めている。このような意味においても，本学の大学スポーツを部活動の現場と教育を融合したマネジメント実践の場とプログラムが必要とされよう。これらが円滑に機能すれば輻輳的に相乗効果を生み本学の大学スポーツの価値を上げ，さらなる広島経済大学のブランディングを大いに高めることができるのではないだろうか。

以上，今回の報告では，経大スポーツの過去と現在の本学のスポーツ資源をスポーツ施設に焦点を充てみるにとどまるまでであったが，大学スポーツ資源を管理・運用していくうえで，ハード面でもあるスポーツ施設に関しては本学のスポーツ施設は全国の大学および運動施設と比較しても

トップクラスであることは自他ともに認めることができる。今後は，大学スポーツの推進を図る政策（文部科学省，2017）にも対応すべく，施設を有効に活用し，大学スポーツでの活躍を視野に入れる学生の受け入れやその指導者等の人材を育成，さらには地域貢献等を図るための調整・育成型の部局の創設をはじめとしたソフト面を検討・強化し，さらに魅力ある大学として存在し続けることが求められる。

参　考　文　献

朝日新聞（1970－2016）スポーツ関連記事，株式会社朝日新聞社.

中国新聞（1970－2016）スポーツ関連記事，株式会社中国新聞社.

学校法人石田学園広島経済大学（2017）広島経済大学広報縮刷版，広島経済大学.

広島経済大学学務センター学生課（2016）リーダーズハンドブック，p. 2

広島経済大学,「サークル活動」http://www.hue.ac.jp/life/circle/index.html（2017/3/20アクセス）

一般財団法人全日本大学サッカー連盟．http://www.jufa.jp/（2017/3/20アクセス）

公益財団法人広島県体育協会（1984－2014）広島スポーツ年鑑，広島県体育協会.

公益社団法人日本学生陸上競技連合．http://www.iuau.jp/（2017/3/20アクセス）

公益財団法人全日本大学野球連盟．http://www.jubf.net/profile/index.html（2017/3/20アクセス）

文部科学省（2010）スポーツ立国戦略―スポーツコミュニティ・ニッポン―．http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/1297182.htm（2017/3/20アクセス）

文部科学省（2017）大学スポーツの振興に関する検討会議最終とりまとめ―大学のスポーツの価値の向上に向けて―．http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/005_index/toushin/1383246.htm　（2017/3/20アクセス）

日本陸上競技連盟（2017）陸上競技ルールブック．ベースボールマガジン社，pp 389-515.

山本順之（2009）大学におけるスポーツの役割に関する研究：大学スポーツの変遷と発展．社会文化研究所紀要 64: 81–99.

全国大学体育連合,「大学スポーツ推進宣言」http://daitairen.or.jp/?page_id=8358（2017/4/25アクセス）